

象徴としての文様

そこにこめられた想い

朝鮮王朝時代、人々がまとう韓服の刺繍、身につけた装飾品、家屋の建具や調度品などを飾った文様をめぐり、さまざまな意匠が生まれた。それらの多くは、中国の古文献に記載された伝説や伝承に由来するが、なかには、漢字音の語呂合わせによるものもある。文様の意味やそこにこめられた人々の願いは今も昔も変わらない。文様として意匠化されたおもなモチーフとその象徴的な意味は以下の通りである。

四霊

龍、鳳凰、麒麟、亀の四種類の霊獣。四霊は縁起の良い動物と考えられており、その代表格は龍と鳳凰である。

龍

すべての動物の上に立つ統領であり、無限の能力と力をもつ霊獣として、帝王と永遠の王政の象徴とされた。その姿は、頭は蛇、角は鹿、目は鬼神、耳は牛、首は蛇、腹は大きな貝、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎を思わせる。仏教では仏法の守護神、朝鮮王朝の民間信仰では水を支配する水神、あるいは航海と漁業を司る海神として崇められた。



朝鮮王朝においては、王の権威を象徴するものとして、王の公服の胸・肩飾りである胸背ヒュンベに用いられた。また邪悪を退け、正統を守護する能力をもつものとして、人々の生活のなかに深く根付いていた。多くは、口に願いを叶える如意珠をくわえた姿で描かれている。

鳳凰



すべての鳥の統領であり、あらゆる鳥たちが従うといわれた。鳳が雄、凰が雌である。その姿は、前は麒麟、後ろは鹿、頸は蛇、尾は魚、背は亀、あごはツバメ、くちばしは鶏に似て、五色の羽をもつとされる。仁義礼智信という五つの徳を備えた、気高い瑞鳥とされ、泰平の世の到来と永続への願いを象徴し、宮中のさまざまな装飾に多く用いられた。その気品の高さから、とくに王妃の象徴とされた。

麒麟

三百六十種の獣の統領であり、聖王の代に姿を現すといわれる瑞獣。麒

が雄、麟が雌である。体は鹿に似て、蹄は馬、尾は牛、体毛は黄色で、背の毛は五彩、頭上に一本の角をもつ。地上を歩いて草を踏まず、生き物を食べず、泰平の世の前兆として現れる吉祥霊獣と考えられた。

亀

四霊のなかで唯一実在する生き物。古代の占いである亀卜キボクでその甲羅が用いられたように、霊力をもつ神聖な生き物として認識されるようになった。不老長寿の象徴でもある。



十長生

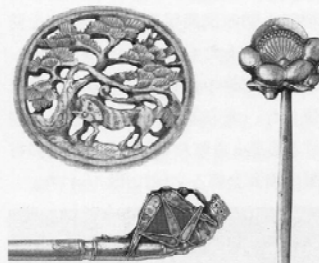
不老長寿を象徴する文様で、太陽、水、松、鶴、亀、鹿、不老草（靈芝）の七種類に、山、雲、月、岩、竹のうちのいずれか三つを加えた十種類をいい、朝鮮独自の意匠である。チュモニなどの装身具の文様ともなり、これらをまとめて描いた十長生屏風は、宮中での儀式の際に用いられた。朝鮮王朝時代から、人々に長く愛されてきた代表的な文様の一つ。



松竹梅

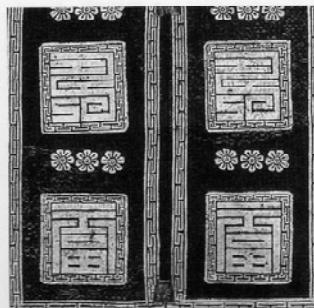
節義と志操、脱俗と風流、長寿を象徴する。松は常緑であることから長寿を表すとされ、十長生図の素材として重要な位置を占める。竹は四季を通じて色を変えないことから、君子の風格と気概を表すものとして愛された。また、火にくべると破裂し、その音に鬼神がおそれ逃げるといふ意味をもった。梅は純潔と守節の象徴であり、雪中でも花を咲かせる

ので、長寿の象徴とされた。梅と竹がともに描かれた文様は、夫婦を象徴した。



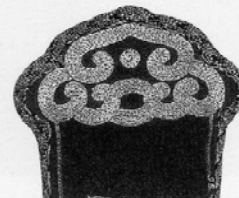
吉祥文字文

寿と福の字の文様には、文字どおり長命と福を願う想いがこめられている。刺繍の文様では、楷書または草書体が、器などの工芸品では、篆書体または図案化されたものを用いる。どちらも朝鮮王朝時代に生み出された文様である。「喜」の字を横に二つ並べたものを「双喜文」と呼び、龍虎相喜という熟語がその由来とされる。これは夫婦がお互いに喜びを分かち合うことを意味し、陰陽和合を表す



ようになった。やがて広く、文武の融和、群臣の融和、父子の融和の象徴になった。このほか富と貴など、めでたい意味の漢字を使った文様がある。

如意文



僧侶が説法をするときや法会で所持する道具が文様になったもので、万事が自分の思いどおり叶うように願う意味がある。

天桃



西王母という中国の伝説上の仙女が育てているという天界の桃で、三千年に一度実がなり、これを食べると不老不死になるという。長寿を象徴する。

牡丹

百花の王として、富貴を象徴した。刺繍、絵画、工芸品に幅広く愛用された。岩や桃とともに描き長命富貴

を、水仙とともに描き神仙富貴を象徴した。



蓮

汚泥のなかにあっても美しい花を咲かせることから、仏教では清潔さ、純潔を象徴し、超脱、菩提、浄化などの概念を象徴した。儒教では君子の清貧と孤高を表し、道教では神仙がもつ神聖な花とされた。花と種の茎が同時に水中から伸びることから、子孫の繁栄を意味するようになった。



虎

災いをもたらす猛獣として畏怖の対象であったが、ときに人間に味方し、邪神を退ける霊獣ともなるとされた。朝鮮王朝の民間信仰では、疫病を防ぎ、福をもたらす運気を象徴した。神仙や山神の使いとして勇猛さを象徴した。虎の夢をみると、官途が開ける前兆とされたことから、武官の官服の胸背を飾る文様用に用いられた。



鹿

端麗な姿と温順な性格をもつ動物として、昔から神仙の気質をもつ獣とされた。群れが移動するとき、先頭を行く鹿が落後した仲間がいないか首を上げて確かめる習性があるとさ



れ、友愛の象徴となった。さらに、五百年生きると白い鹿になるという伝承に基づき長寿の象徴として十長生の一つに数えられた。長寿の象徴としては、松、紅葉、岩、不老草とともに描かれる場合が多い。また、福録の象徴ともされた。それは鹿の字の韓国語音が福祿(天から与えられた幸い)や俸祿、祿米などに使われた「祿」の字と同音であることによる。官途について多くの俸祿が得られるようにとの願いがこめられている。

鶴



昔から長寿の瑞鳥とされる。神秘的で霊力があると考えられ、十長生の一つでもある。その品格は鳳凰に次ぐとされ、人徳ある学者の気品になぞらえて、文官の官服の胸背に用いた。

鴛鴦

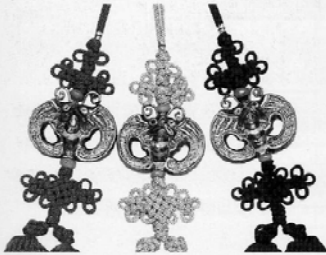
鴛鴦のつがいは生涯離れず、羽を連ねて飛ぶといわれ、夫婦間の仲睦まじさの象徴となった。鴛が雄で、鸯が雌である。掛け布団やペグモとい



う枕の側面の刺繍飾りに使い、男女間の良縁を願う想いを象徴した。

蝙蝠

蝙蝠の「蝠」の字の韓国語音が幸福の「福」と同音であることから、あるいは韓国語で蝙蝠を「パクチィ」といい、「パク」という発音が福の音「ポク」に似ていることから、幸福の象徴となった。コウモリを二匹描いた文様を双福、五匹描いたものを五福という。五福は、長寿、富、無病、徳を好み、天命を全うする人生の五つの幸福をいう。



魚

もっともよく表されるのは鯉。鯉は黄河上流の登龍という溪谷の激流を遡り、龍になるという中国の伝説にあやかり、刻苦勉強して科挙に合格し、

高い官職に就くという、出世への願いを表す。また、神仏の加護によって厳冬に鯉を捕らえ、継母を養った中国の孝行息子の説話から親孝行の象徴ともなった。さらに子孫繁栄を象徴し、スジョチプ(筥と匙入れ)に刺繍されることが多い。鯉以外の魚の文様も対で描かれることが多く、夫婦和合と財物に余裕のあることを願う想いを象徴している。

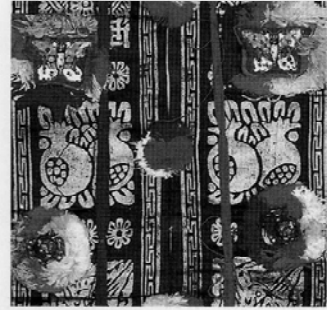


雲

形を千変万化させ、入道雲のように内に力を潜めた姿、また浮雲のように静かに風に流されるひ弱な姿にもなる。強弱虚实を兼ねそなえた、幻想的な雰囲気醸し出す文様として愛用された。



石榴



実のなかに多くの粒が詰まっており、その形態が財宝の詰まった巾着のようにも見えることから、子孫繁栄と家門の富貴への願いの象徴であった。